

司会 「せたがや百景」は、かなりの盛り上がりのなかで区民が選んだわけです。しかし、世田谷は少々広くて、区民といえども、百景を知っている人間はかなり少ないんじゃないかといえます。そこで、これをきっかけに、ひとつ世田谷のまちの探検といいますか、身の回りの環境を考えもらいたい。

まず、そのことがまちづくりを考えていくふるさと世田谷づくりをしていくきっかけになるのではないか。というわけで、その手助けになるようなガイドブックづくりをすすめしております。

そのガイドブックの一コマとして、世田谷のまちに寄せるみなさんの考え方、あるいは今までの生活体験の中で思ひを寄せてている風景、あるいは将来どうあって欲しいかということをお話し願いたいと思います。まず、自己紹介的に世田谷の町とかかわりを語つていただきたいと思います。では、芦沢さんから。

世 田 谷 の 風 景 を 語 る 座談会

いちばん好きな風景といえば、やつぱり家の近所

いるほうではないかと思います。

私のいちばん好きな風景といえば、

家の近くの今は呑川遊歩道になつてし

まいましたが、昔は川だつたんです。幼

稚園に行つていたころ、もう十五、六年

前ですけど、春になると呑川の川の流

れと桜がとってもきれいな風景だった

なあ、というのが印象に残っています。

毎年春になると家の近くで桜が咲き

出かけなくとも近所にあるものだと

思つていてなんですね（笑）。大学に入つ

て友達から「花見に行こうよ」と誘わ

れて、「花見つて、家の近所でするも

のじゃないの」といったら笑われまし

た（笑）。このごろは春になると家の

近所にも大勢よそからくるんですね。

ござを敷いて桜の下で宴会をやつてい

るという情景も見られるようになつて、

桜のあるところに生まれてよかつたと

思つています。

私は、地域で子ども会活動にたずさ

わっていて、時には多摩川へ子どもと

手をつないでハイキングに行つたりし

ていますので、まあそんな中でも見て

いるふるさと世田谷づくりをしていく

きっかけになるのではないか。とい

うわけで、その手助けになるようナ

イブックづくりをすすめております。

そのガイドブックの一コマとして、世

田谷のまちに寄せるみなさんの考え、思

ひを寄せてている風景、あるいは将来ど

うあって欲しいかということをお話し

願いたいと思います。まず、自己紹介

的に世田谷の町とかかわりを語つて

いただきたいと思います。では、芦沢

さんから。

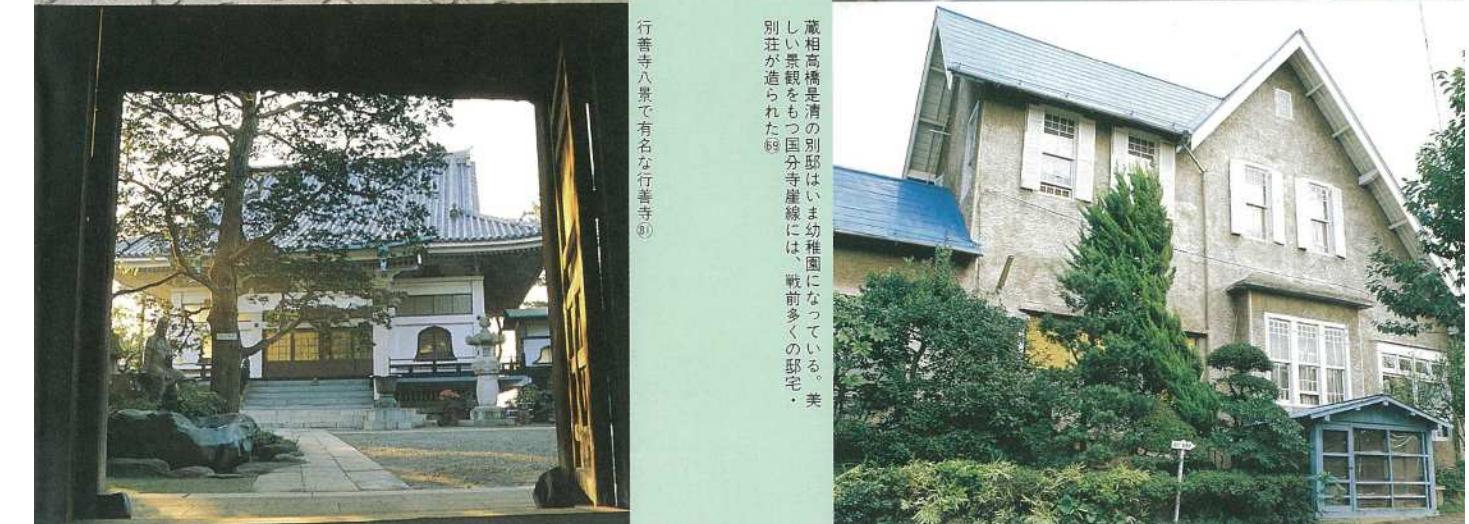
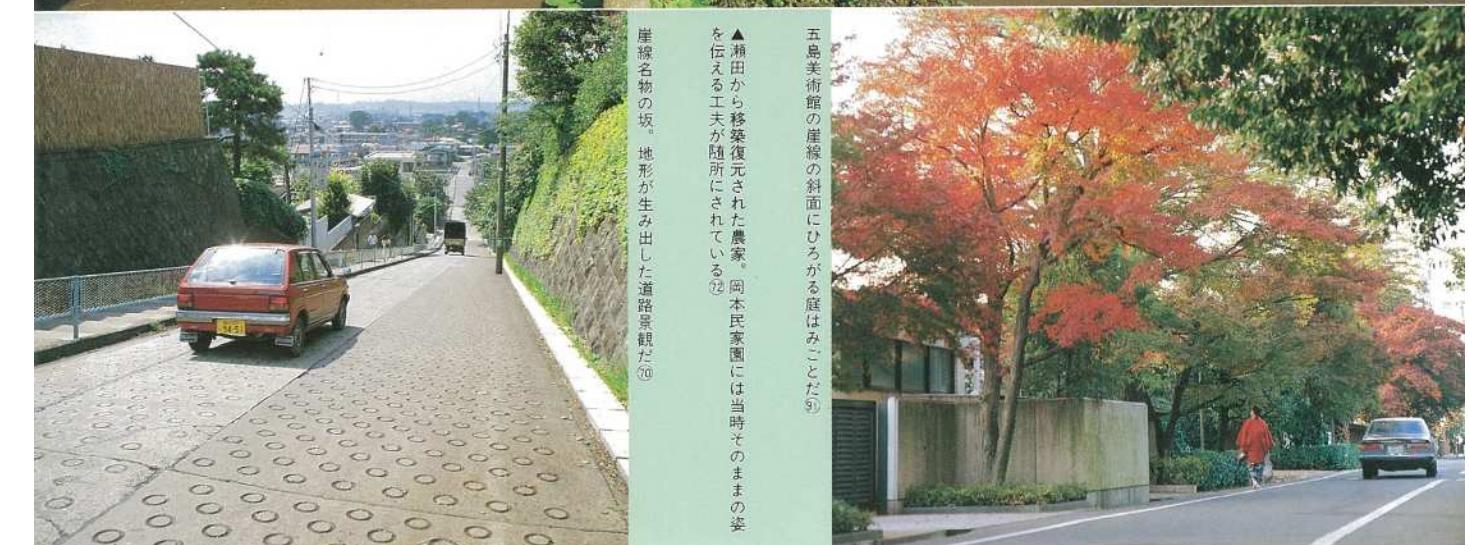
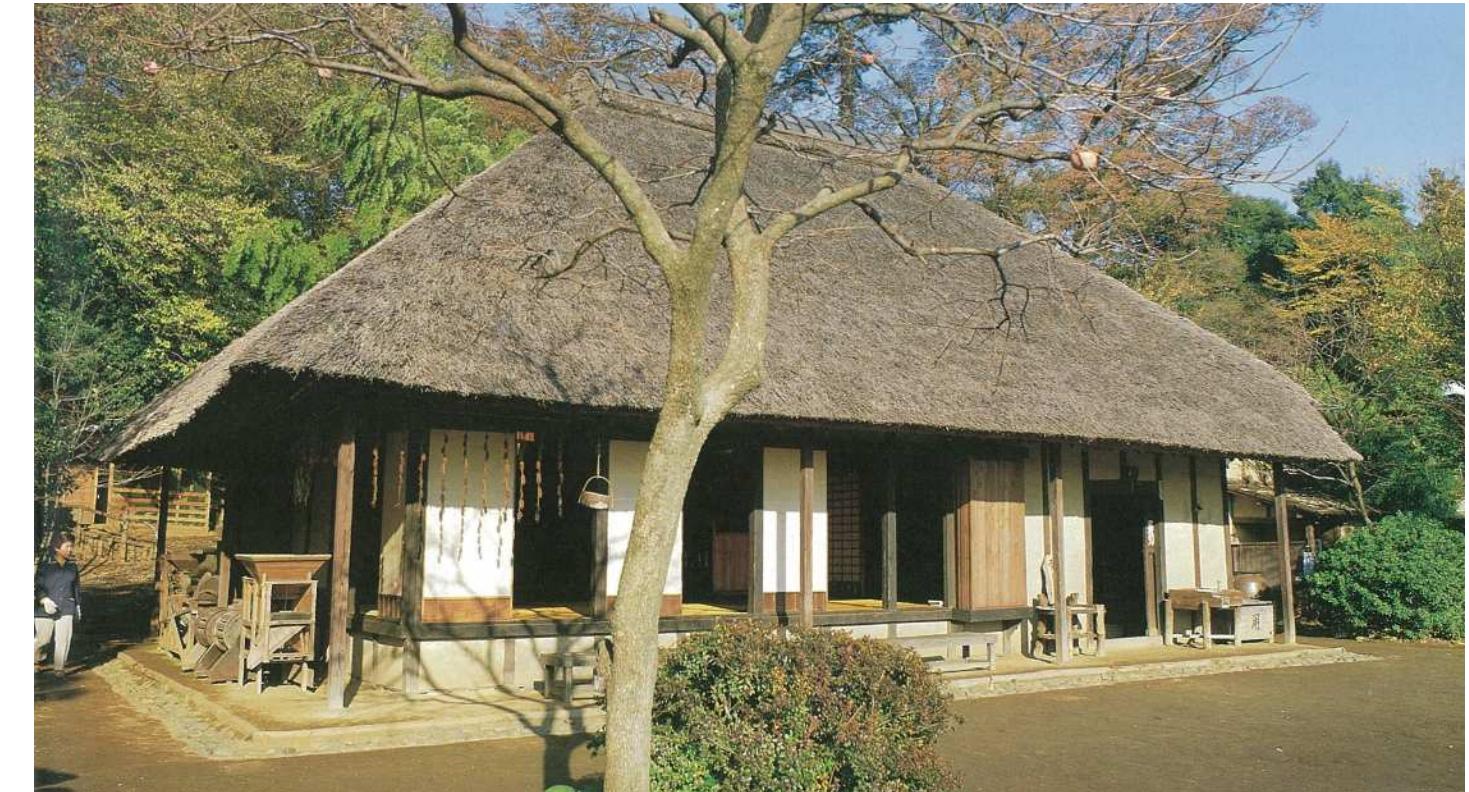
芦沢明子・あしざわあきこ
大学生(中央大学4年生)

沢田重隆・さわだしげたか
画家

進士五十八・しんじいそや
東京農業大学助教授

福田純・ふくだじゅん
映画監督

●司会●
田中勇輔・たなかゆうすけ
世田谷区役所企画部
都市デザイン室室長



司会 進士先生は区内にお住まいじや
あないんですけど、大学への道筋の風

百景選定の趣旨と経過

「せたがや百景」は、昭和59年、区民の皆さん
の手で選ばれました。候補の推薦や投票に
皆さん大いに盛り上がって参加してください
ました。おかげで下の表のように、かなりバ
ラエティーに富んだ風景で百景が構成され、
世田谷はこれだけ豊かな「町の顔」を持って
いるということを多くの区民の方がたが知る
ことになりました。

いまなぜ百景か

ところで、区役所が百景を選ぶなどという
醉狂なことをしてどうするのか、その前にも
っとやることがいっぱいあるのではないかと
いった疑問をお持ちの方もいらっしゃると思
います。したがってここで、選定の経過をお
伝えする前に、百景選定の発想とその趣旨に
ついて少しく述べておくことにします。

いま世田谷区は、基本計画に基づいて、その土地の自然・歴史・文化・風土、人々の生活様式や環境に対する見方などを踏まえて、

せたがや百景の類型区分

類型	百景	候補
自然のある風景	14	26
農地・田園	1	8
水・流れ	7	12
樹林	6	6
歴史が見える風景	28	63
寺社・仏閣・旧蹟等	25	56
旧街道	3	7
生活・コミュニティーが見える風景	12	20
街の活気と生活	4	10
催し・伝統行事	8	10
魅力ある住宅地・建物の風景	13	33
住宅地	6	15
戸建て住宅地	5	10
集合住宅地	1	5
建築	7	18
魅力ある庭・広場・公園の風景	17	25
庭・花木・広場	8	14
公園	9	11
魅力ある道の風景(含交通機関)	13	27
街路樹・並木道	6	10
緑道・路地	4	6
坂道	1	7
現代交通風景	2	4
眺望景観	3	6
合 計	100	200

それと、たとえば中央沿線などと比べてみると、中央沿線というのは沿線の各駅を基点として非常に大きな商店街ができてしまつて、そのうえ大資本がよそから入ってきて街を強引に一方的に作つてしまつたという感じが強いですけれども、世田谷の中の商店街といふのは意外と大きな資本は入つっていないんじゃないでしょうか。

たとえば、小田急線の代表的な下北沢の町など、あんまり大きな資本は入ってきてないですよね。全部が横丁と

下北沢にはふだん着で行けるね

よく感じられますし、一応小さな林とか、大きな屋敷の木とか、非常に緑が多いわけです。それが季節によつて花が咲いたり実がなつたり、葉の色が変わつたりしてやつぱりどんどん変わつていくんで、けつこう電車から見る風景だけでもほかの地域に比べると、非常に自然が残つているんじやないかなという感じがするんですね。

まして福井から深川の木場へ行って
それから今は小田急線の南林間に住んで
いるんです。それぞれの環境が全然

下田農村住宅地

方はどんどん変わりますね。町の風景を見る目も変わります。たぶん芦沢さんがここに生まれてずっと育っているから、友達にいわれてはじめてそんなにいいところかと思われたのでしょうかけれど、足元の風景を見るのには、全然違うところに行つて違う体験をするのが一番いいと思うんですね。



風景というものは
メンタルなものですね

いう感じの街でしょう。職住一体みた
いになつていて、とてもファミリーと
いうか親しみがあつて、ほんとうにふ

A black and white photograph showing a person working at a workstation, possibly a tailor or seamstress, surrounded by various items like a bicycle, a chair, and shelves.

るところにある。通常は緑豊かな住宅都市とか一つの形容詞でいわれていますけど、少し違うんですね。

司会 緑豊かな住宅地に長年お住まいの沢田先生。

いの台地を降りて行くと、岡本の民家園に代表される私にとっての原風景で、すけど、福井の越前平野に類するものがまだ少しは残っている。

造園の勉強になつたと 思います。 そう いう目で世田谷を見ますと、世田谷区 には三つの顔が揃つて いるんですね。 まず、下町的なところが あります。 今回の百景でとくにはつきり出てきまし たけど、三軒茶屋から太子堂、それから 下北沢だと かいうのは、あんまりおつ とりすまして いない。 下ノ谷界隈が典 型的ですね。 ほんとうに台東区の下谷 をもつて きたようなものですね。

季節の移り変わりを告げる
自然が残っています

自然が残っています

季節の移り変わりを告げる

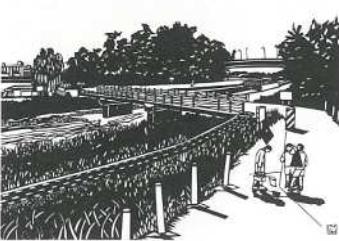


成城、住宅街のたたずまいはそこに住む人々の心のあらわれでもある。

百景選定の趣旨と経過

区役所の縦割りの事業・施策をできるだけ横につなぎ、住民の方がたと一緒にきめ細かなまちづくりをすすめようとしております（これを「地区まちづくり」と呼んでいます）。いかえますと、皆さんのが「好ましい」と感じる風景の中で生活し、活動してゆくことを願って、そのような風景を守り育てる、あるいはつくってゆくことに心を碎いています。もちろん「まちづくり」のない手は、区役所や東京都、政府といった公共部門だけではなく、いろいろな事業を行なう企業、それに、「住み手」「生活者」である皆さん自身もそうです。それぞれが協力し合わないと、好ましい風景を守り育てることもつくってゆくこともむずかしいことはいうまでもありません。では、みんなの協力で大切にしてゆくべき風景とはいいったいどういう風景なのか、皆さんの日常生活空間つまり足元の町から掘り起こしてみよう。そして、皆さんの共通の感性と理解のもとで「百景」として選び、今後の世田谷のまちづくりを考える原点にすえよう。これが百景選定の発想と趣旨でした。

というわけで仕掛け人は区役所でしたが、主役はあくまでも区民の皆さん、候補としたい風景をあげてもらうことと、その候補についての投票を皆さん的手でやっていただくことにいたしました。選定委員会(26ページ参照)を設け、選定基準を定めたり、投票していたら、「百景候補」の選定、最後に投票結果をもとに「せたがや百景」として100の風景を選ぶという仕事にあたってもらいましたが、それは皆さんのお手伝い役にすぎませんでした。



兵庫島の切り絵 後藤伸行

発見 わがまちのいい風景

こうして、4月半ばから5月上旬にかけて「発見 わがまちのいい風景」をキヤッチフレーズに、皆さんから「好ましい風景」を推薦していただきました。「区のお知らせ」での呼びかけだけでは心もとなく、町会・自治会の回覧を通じてもお願いしました。その結果、延べ2700景、重複を整理して400景近いたく

ね、そこへ時間が来るまで寝転がつて青空を仰いでいるわけです。そうすると、春夏秋冬が見えるんです。季節感がしみじみくるんですよ。春はヒバ御料林。杉の木のある風景ですが、世田谷に対するいちばんの心象風景になっています。

ところがそれは全部なくなつて、学校になつたでしょう。そういうのがいたるところにあると思います。私自身はずっと勤めが変わらず今日まで来てるものですから、世田谷の移り變りは全部わかっているんですけど、よその都市についてはロケーションで行くだけでしょう。昔から市場じやわからぬです。昔から市場が好きなもので、知らないところへ行くと、まず市場をずっと歩くわけ

ですね。
使いこんで育てていける、それが「いい風景」

世田谷区

まちづくりの発想につなげようとしているわけです。その場合、自然風景本位ではなく、もっと人間の生活、市民の生活に密着した「生活風景」を選んでゆこうではないかことが一つですね。それからもう一つ、心の問題もできるだけ入れたい。結局、身近な足元の風景を見つめて、「わが町のいい風景」を発見する。こういうスローガンを掲げまして、とにかく從来から来た風景観をこの辺で切り換えるよう人工的に装つただけの美しさだけの問

ね、そこへ時間が来るまで寝転がつて青空を仰いでいるわけです。そうすると、春夏秋冬が見えるんです。季節感がしみじみくるんですよ。春はヒバ御料林。杉の木のある風景ですが、世田谷に対するいちばんの心象風景になっています。

ところがそれは全部なくなつて、学校になつたでしょう。そういうのがいたるところにあると思います。私自身はずっと勤めが変わらず今日まで来てるものですから、世田谷の移り變りは全部わかっているんですけど、よその都市についてはロケーションで行くだけでしょう。昔から市場じやわからぬです。昔から市場が好きなもので、知らないところへ行くと、まず市場をずっと歩くわけ

ね、そこへ時間が来るまで寝転がつて青空を仰いでいるわけです。そうすると、春夏秋冬が見えるんです。季節感がしみじみくるんですよ。春はヒバ御料林。杉の木のある風景ですが、世田谷に対するいちばんの心象風景になっています。

下北沢北口の市場。戦後の生活史が詰まっている感じがする⑩



下北沢北口の市場。戦後の生活史が詰まっている感じがする⑩

福田 ちょっとあるだけでしょう。それから下ノ谷の朝市とか……。何かそういう匂いを感じさせる市場が世田谷には少ないし、そういう場所を「百景」の中ではどれだけ求められるかなあつて。やはり「せたがや百景」というのは、そういうかたちでメンタルで何か感じています。

澤田 下北沢にちょっとあるだけ。

福田 ちょっとあるだけでしょう。そ

れから景観と風景を分けるのは大変難しいと思うけど、「景観」というのは無機的なもので、「風景」というのは大変にメンタルなものだと僕自身は申しているんです。

司会 せたがや百景選定の提案者であ

る進士先生から、百景選定の意図を

す。そうするとその土地の生活、風土までだいたいわかるんですよ。今ふつと思つているんですけど、世田谷にはそういうものを感じさせる市場が少な

いですね。

福田 ちょっとあるだけでしょう。それから景観と風景を分けて景観と風景をまず分けちゃうんですね。景観というのは科学的に把握できるものだといういい方で、どちらかと

いうお気持ですね。シーンと風景、

この風景をわれわれはランドスケープといつておりますけど、心の風景、心

象風景を含んでいるんじゃないでしょ

うか。昔から景観論という議論があつたらしい景観と風景を分けるのは大変難しいと思うけど、「景観」というのは

海が控えています。だからどうし

てもいわば自然風景、自然景観が選ば

れがちだつたんです。

今、福田さんが景観と風景を分けていらつしやいました。景観はシーンだ

といつておりますけど、心の風景、心

象風景を含んでいるんじやないでしょ

うか。

お寺とか神社の名所旧蹟が中心になつて、もちろん名所旧蹟は单にお寺と神社の建物だけでなくて、背景は緑だし

海が控えています。だからどうし

ともいわば自然風景、自然景観が選ば

れがちだつたんです。



進士 はじめに前書き的に申しますと、昔からある日本三景とか、近江八景、金沢八景、江戸時代の本朝十二景、こ

ういうい方はもともとは中国が起原

なんですね。中国の瀟湘八景や西湖十

景などをお手本としているわけです。

最近では、新東京百景とか神奈川県の

景勝五十選といった例があります。日

本人の共通した風景觀は、昔からこう

いうふうに「選ばれた景勝地」のイメ

ージがありまして、それはどうしても

私が十年ぐらいまえ琵琶湖に行きましたときに、湖をきれいにするため大

変な人工の島を作つていた。そこは近

江八景の「一カ所なんです。それで風景

は全く一変しちゃつたわけですね。と

ころが、誰も反対しないわけですよ。

由緒の古い名所なのに、そこがどんな

に荒れても誰も関心を持たないとい

うのはどういうことかと考えたわけ

です。

そういう意味では、住民が自分の環

境にちゃんと目を光らせる。そのため

には、まず自分のところはいいところ

だと感じなければ困るし、知つてい

ければ困る。知つていれば「あそこが

変わる、まずいな」という議論も起

るわけです。

そういう意味では、住民が自分の環

境にちゃんと目を光らせる。そのため

には、まず自分のところはいいところ

だと感じなければ困るし、知つてい

ければ困る。知つていれば「あそこが

私は「せたがや百景」を選ぶことが、一つの郷土教育でもあるし、あるいは、まちづくり運動のスタート、きっかけにしてほしいと思います。

司会 区民投票が九万二千ほどあったわけですけれども、これがだいたい各年代平均して分布しているんです。

それと、小学校の子どもさん達に人気のあった風景は、具体的に自分の生活とかかわりがあるものだけでした。

つまり、乗り物であるとか、公園であるとか、そういう非常に具体性のある風景です。このため全体としてバランスがとれて、神社仏閣に片寄らなかつたんじやあないかと思いますね。あと

は、若い方がたの場合、たとえば「下町的」といつても下町的で何か賑わいが加わらないと人気がない。神社仏閣でも、祭りのある神社仏閣とない神社仏閣ではちょっと違ったんじやあないでしようか。

進士 百景について「私の三景、わが家の八景、みんなの十二景」だったが、多分に語呂合わせ的なんですねけれども、そんなことを書いたんですよ。それはどういうことかといいますと、自分にとつて非常に印象の強いところが三景ぐらいはあるだろう。「我が家」となると、子どもの日でのいいところとお年寄りのいいところとは違うわけですね。だから、家族でやればたぶん八景ぐらいいは出る。「みんな」というのは、かなり生活環境も生い立ちも体験も違う職場ぐらいですと、十数景は出てくるんじゃないかな。風景というのはそういう



百景選定の趣旨と経過

さんの風景が寄せられました。

さてこんどは、投票していただく「候補」を決めなければなりません。というのは、あまりたくさんではかえって混乱するので、あらかじめ百景の倍の200景について投票していただこうという方針を立てていたわけです。委員会は下段に掲げたような選定基準を立てておりましたが、これをまず候補選びに適用することにいたしました。しかし、選定基準に照らしてみて「これはどうも」というのはほんのわずかしかありません。委員会は、夜遅くまでカンカンガクガクの議論をかわしながら、涙を呑んで大ナタを振るわなければなりませんでした。区役所のいろいろな部署の係長が事務局スタッフとなって、分担して写真を撮り資料を集め、推薦された方の立場で壳込みに一所懸命、入選するとホッとき、選に洩れると氣の毒なほどガッカリしておりました。委員会も、二、三の風景を一つにまとめてできるだけ拾い込もうとしましたが、やはり限度がありました。

投票数9万を突破

以上のようなつらい過程を経て選んだ百景候補を7月に発表、投票用紙1枚につき5景までを記入できることとし、8月半ばまでの1ヵ月半を投票期間としました。候補の写真は区広報には載せきれなかったため、季刊誌『グラフせたがや'84夏号』で紹介するにとどまりました。その代わり、パネルを用意して人出の多い催しや地域のまつりなどにどんどん出前しました。投票箱も300個以上用意し、郵便局や金融機関のご協力で、皆さんのが身近な所で投票できるようにしました。投票箱には、子ども達に思い思いの絵を描いてもらいました。こうしたことも人気を集めたのでしょうか、投票を締めきって回収した用紙は何と9万2000枚、大変な盛り上がりでした。

委員会は、得票順に100位までの風景を並べてみて、投票結果どおりを「せたがや百景」とすることにしました。風景類型や地域的な片寄りがあった場合は若干調整しようかと考えていたのですが、その必要もないようでした。こうして、9月半ばに区長に答申、10月10日の区広報臨時号で特集を組み、皆さんに公表しました。

百景をまちづくりに活かす

はじめに申しあげましたように、世田谷の町、世田谷に住む人々にとって大切な風景とは何か、それを明らかにして今後のまちづくり

本三丁目の坂道」です。子どもが自転車を押している。元気のいい子どもでも、自転車を押して上がらなければいけない坂があるんだなあという感じです。それから「松原のミニイチヨウ並木」。何で好きかというと、子どもが一人入っているんです。学校のあるあたりでは子どもをよく見かけますね。子どもが入っているのとしないのとでは、随分印象が違っちゃうなと思うんですね。神社にしても、今は子どもがあんまり遊んでませんけど、子どもがいると生き生きしてきます。いろいろ

ろと子どもの遊ぶ施設もできて遊び場を探すことがなくなっちゃつたんですね。でも私は、家の周りを歩いていて、子どもが家のすぐ横の柱のところでドッジボールとか石蹴りとかやってるのを見ると、ああ楽しそうだなという感じがします。「公園」という名前なのに、あれをしゃあいけないとかこれをしゃあいけないとかいうのが多いんです。そんなに文句をつけられるんだつたら、道路で遊んでいたほうが多いって子どもがいう。

沢田 そういう点では、砧のファミリーパークなんかに行くと、ほんとうにのびのび走り回れるし、いいですね。それがいる風景になるんですね。だから、子どもたちが遊んでないといふことが今は大変なんですね。だから、できるだけ空間を広く取ることをまず考えたいと思いますね。芦沢君のいっているのは、僕のいつている景色と風景なんだね。人間

がいる風景になるんですね。だから、

子どもの入っている風景がいいわけだ。

沢田 今の若い人は、福田さんがさ

つきおつしやつた風景論に当てはまる

と思うんですが、自然がそのまま美し

いところは興味がなくて、やつぱり人

の集まるところとかそういうところに

集まつていくんですね。だから、下北

沢は確かに風景としては何でもないで

すけど、やつぱり集まるだけの魅力が

あるんじゃないかと思うんです。美し

いからこういうところへ行ってみると

いつても、若い人はあんまり行かない

んじゃないかと思うんですよ。それは

デートか何かでは行くでしょうけれど

もね。

司会 先ほど、見てくれのいい公園でも、実際には子どもが遊んでないといふ話が出ましたが、なかなか重要な問題だと思います。人と町とのつきあいを、もう少しくしていくためにはどういう魅力を町が備えていかなければならぬか。時間も残り少なくなつて

足元を見直せば、いろいろな可能性が発見できます

うものだと思うんです。

それから、住宅が多いから、個人個人が自然を保っているんでしょ。されでいるんじやないかという気がします。下町へ行くと、それがほとんどないですね。比較するとほんとうによくわかります。

福田 いまのお話は面白いですね。世田谷の邸宅の中にある樹木というのは、今までいう「民活の緑」ですね。

澤田 それと、世田谷区には公共施設、学校とか、役所とか、研究所とか、公園とかが非常に多いですね。公共的なものとかも非常に多いですね。公共的なものとくには非常に大きなエリアを持たなければならぬ。そうすると、いやでも応でもその周辺には自然が残つてしまつでしょ。これが一つの規制になつて自然を保存することになるんじやないかと思うんです。壊そぞ思つても壊せないものがかなりあるということは、非常に条件がいいんじや

んじやないかと思います。

たとえば、五、六メートルの大きな木が静嘉堂の周りには何十本とありますね。その環境の中では何でもない木だと思うんですが、この一本を抜いて下町のたとえば根岸のどこかへ植えるとしますね。植える場所がないですよ。それだけ違うんですね。



まちにつづくグリーンのベルト、北沢川緑道ユリの木公園⑪

人が集まるところが、やつぱり魅力のある場所

芦田 この百景の写真を見ていて私がいいなあと思った風景というのは「岡

木が静嘉堂の周りには何十本とありますね。その環境の中では何でもない木だと思うんですが、この一本を抜いて下町のたとえば根岸のどこかへ植えるとしますね。植える場所がないですよ。それだけ違うんですね。

田谷の邸宅の中にある樹木というのは、今までいう「民活の緑」ですね。

澤田 僕はいま下町の雑誌を作っていますね。

福田 いまのお話は面白いですね。世

田谷の邸宅の中にある樹木というのは、今までいう「民活の緑」ですね。

澤田 それと、世田谷区には公共施設、学校とか、役所とか、研究所とか、公園

とかが非常に多いですね。公共的なもの

のとくには非常に大きなエリアを持

たなければならぬ。そうすると、い

やでも応でもその周辺には自然が残つ

てしまつでしょ。これが一つの規制に

なつて自然を保存することになる

んじやないかと思うんです。壊そぞ思つても壊せないものがかなりあると

いうことは、非常に条件がいいんじや

んじやないかと思うんです。

たとえば、五、六メートルの大きな木が静嘉堂の周りには何十本とありますね。その環境の中では何でもない木だと思うんですが、この一本を抜いて下町のたとえば根岸のどこかへ植えるとしますね。植える場所がないですよ。それだけ違うんですね。

せたがや百景選定委員会（◎印委員長 ○印副委員長）

◎桜井正信	駒沢大学教授(歴史地理)	後藤伸行	切り絵作家
○岩崎京子	作家(児童文学)	坂本觀晃	知行院副住職
○下山照夫	区文化財保護指導員	進士五十八	東京農業大学助教授(造園)
秋山元治	農業・区文化財調査員	鈴木忠義	東京農業大学教授(風景計画)
石黒武重	世田谷区町会総連合会最高顧問	筒井敬介	作家(劇作・児童文学)
荻原礼子	子どもの遊びと街研究会事務局長	東野芳明	美術評論家
木原啓吉	千葉大学教授(環境政策)	富田玲子	建築デザイナー
桑島俊彦	世田谷区商店連合会青年部長	永井うめ子	世田谷区婦人団体連絡協議会代表

奈良孝男	元高等学校教諭
福田繁雄	グラフィックデザイナー
増村莊太郎	世田谷区助役
矢吹申彦	イラストレーター
山口長五郎	世田谷区町会総連合会副会長